

薬の飲ませ方

小代博之 朝霞地区医師会 電話 048-464-4666

乳幼児をもつ御両親にとって一番大変なのが薬を飲ます事です。美味しい薬なら喜んで飲みますが、少しでも嫌なら吐いてしまいます。機嫌が悪い時、熱が高い時など、どうしたら飲んでくれるのか悩むことが多々あると思います。そのような時に少しでもお役に立てるよう、日常の診療での御両親からの質問等を交えて書いてみました。

粉薬の場合（乳児期）

普通の粉薬は白湯やシロップには溶けにくく、混濁してしまいます。子ども用の粉薬は甘くコーティングしていますが、液体に溶かすと甘いコーティングが溶けて、薬本来の味（苦い薬もあります）になります。また、抗生剤の中には、飲む直前に溶かさないと効果が弱くなる薬もあります。液体に溶かした場合、子どもに飲ます前に御両親が味見をしてください。苦いと飲まないのので気をつけてください。その他に、粉薬を数滴の水で団子状にして、口腔内のほっぺたの裏側や上あご、舌の奥に塗りつけてから白湯やミルク（母乳）などを飲ます方法もあります。この時は、口の中でクチャクチャとしているだけで吸収されていきます。

粉薬の場合（幼児期以降）

乳児期と同じ方法以外に、大人と同様に、そのまま粉薬を口の中に入れてから、水やお茶、ジュースなどで飲ます方法があります。その他に、ヨーグルトシロップや服薬補助ゼリーやジャムなどに混ぜて飲ます方法もあります。喘息の薬（テオフィリン製剤）や一部の抗生剤（マクロライド系など）は、液体に溶かしたり、口の中にしばらく入れておくと、苦味が強くなり、大人でも吐くことがあります。この様な苦味がでる薬は、液体に溶かさずに、そのまま内服させるか、湯煎で溶かしたチョコレートに混ぜ、冷蔵庫で固めて、いわゆる手作りチョコ（一口サイズ）にして与えると喜んで食べてくれます。

水薬（シロップ剤）の場合

シロップ剤は、アイスコーヒーに入れるガムシロップのように単に甘くしているだけです。お子さんによっては甘みを嫌がる場合もあります。シロップ剤を飲ませる時は、泡が立たないように軽く上下に振ってから、指定された量を測ってください。必ずお子さんに与える前にお母さんが味見をし、苦味がないか甘過ぎないかを確認してください。甘過ぎ

たり苦味があったりすると飲まない事があります。

粉薬にするかシロップ剤にするか迷った時は、お医者さんと相談してください。

薬を飲ませる時間

お医者さんや薬剤師さんから特に指定された場合を除き、食前に飲ませた方がよく飲む事があります。食後でお腹がいっぱいになると吐いたり、飲むのを嫌がったりすることがあります。1日3回飲ませる薬（朝・昼・夕）で、幼稚園や学校に通っている場合は、無理に昼に飲ませず、朝・帰宅時・就寝前の3回でも構いません。薬と薬の間隔は4時間以上あけてください。また、熱が高い時や吐いている時は、無理に飲ませず、熱が下がった時や吐き気がなくなってから飲ませてください。

解らないときや困った時は、お医者さんや薬剤師さんに遠慮なく聞きましょう。